

美術情報並び

研究所（仮称）設立趣旨書

桜井 孝身

当歳 70 歳、今更芸術、美術論でもあるまいと毎日、制作に忙しい毎日である。たまたま谷口、舟木、桜井の 3 人が出会った。昔日さながら激論になった。勿論、大酒飲んでの暴論である。谷口は美術館長であり美術短大学長。舟木は九州派で元中学校長。桜井は 4 ヶ月間が福岡、8 ヶ月間がパリ(近郊)住まい。どちらにもアトリエがある。暴論に全くのみ込まれて、かつての青春の真っ只中にいた。そして酔いがさめてみると九州派の桜井は全く福岡のことを知らないことに気が付いた。よく考えてみると 3 人とも暴論の底に流れる考え方の相違点があることに桜井は気が付いてきた。何も今更、相違しようが、それは当然のこととして違和感はない。しかしながら、何か少々は九州派的美術研究?もやらねばならないのではないかという罪悪感みたいなものが無いわけではなかった。

しかしながら現実の福岡美術界にたいしての興味は切実にあるのだが、いわゆる美術界なる実態は何一つ知らずまた少数の友人以外関係は一切無く、ただただ自分の仕事が忙しく九州派の事実に関する記録は殆ど桜井が独占しているが、1987 年 10 月 20 日発行の

「IDISCOVER JESUS CURIST IS WOMAN」 権歌書房 定価 1 万円 ページ数約 1500、重さ 2 キロの本に納めていると言う、と体裁がいいが全く無秩序にたたきこんだので順序、整理が全然なされていない。これは桜井を含めた専門家が詳しく整理、分類する必要があるといつも痛感しているにもかかわらず、それにしても桜井が 8 ヶ月間もパリにいたので時間的にもとても無理で、また能力の点でも問題がある。それを突破するには多くの人々の協力が必要となる。

まずは桜井にとっては美術館、画廊等公私をとわず美術空間を知り、その中身を運営している組織を知り、それらが行っている宣伝、オルガナイズの情報を知り、それを取り巻く地域住民の文化的経済的観客参加、いや美術教育関係もある。50 代女性の熾烈な欲求をそそぎつつけているコンクール問題こそが現代の先端であることに変わりがないが、文化、芸術が経済性の低さ故貧しく健全であったがいまや芸術渴望者、自然信仰者、いま新聞、雑誌が多量にながしている所謂、精神、心の問題が膨大な金を吸い上げている。いい言葉で言えばやっと世間の注目をあびてきた感じである。そしてその対象は観客であるはずの対象の 50 歳代に象徴されるひ弱い作家が予想もしない方向性をたどろうとしている。うかつに見逃してはならない。

前例として 30 年前の少年マガジンのキヨスクでの山積み現象からマンガの世界は爆発した。大方が画家くずれで出発、直ぐに若者が飛びつきご覧のようにマンガ王国が出現した。そしていま芸術の問題ではなく心の問題として美術が低次元の経済を担う様相をていしてきた。

勿論、喜ぶ現象だとは思いますが、そのお客、熱烈たるコンクール求道者の子離れして時間のある主婦と対峙させられると相当、自分自身でもどぎつい私でも吹っ飛んでしまう。危険であるとともにマンガ同様、いや年齢が高ただけ応募料金が15000円と値段が高い。例えばこれは勝手な私の作り話なのだが、うちの可愛い猫ちゃんクラブ主催「猫の絵」コンクールとでもなれば2、3万点の応募者があるとすれば主催者には凄い儲けのチャンスがある。芸術とは縁もゆかりもないもう一つのコンクール形式が生まれつつある。勿論、我々の想像を絶する新しい金儲けをふくめた新ビジネスが誕生しようとしている。それらをすべて知ることはできないが広く好奇心をもやして少しは理解したいと思っている。それと当時の新聞雑誌を福岡図書館通いして丹念に調べる必要がある。

10年前ほど桜井が試みたが予想外に時間を食ったのですぐに諦めたが、あることは確かめている。何処かの美術館が受け持って公開してもらえればそれにこしたことはないが。今なら生き証人もいるし、当時の個展記録も残っている。記録による正確なものが出来ればこの10年諸々の読み物、記録もの、新聞連載等が書かれ、すでに常識、歴史として着々と組み込まれている。正確な事実と個人の思い違い、あるいはフィクションの差をどうみるかという問題が当然問われなければならない。

桜井にとっては九州派の記録の正確さを期す責任がある。舟木は長らく県展にかかわり深く九州派以上に県展を愛しているかに桜井には見える。それが彼の思い違いかもしれないが不当にねじ曲げられた事実があると思われる。県展同様福岡市においても同様の組織ができ同様のねじ曲げ現象が起こっていると舟木は考えている。谷口は福岡市の方の顧問であるそうだ。現在の地点では桜井には何も分かっていない。しかし、それも福岡美術界の一部だろうか、当然調査して公表しようと桜井は考えている。若し、それが喧嘩とすれば当然、相手方の登場を願う事実と意見を間違いなく公表します。関係者のご協力をお願いします。まったく基礎事実として観光資源としての美術館、画廊もあり得る。観光客、学芸員、新聞記者はどのような関心と目的をもって見ているのであろうか。都市には画廊マップがある。その画廊経営、即ち貸料、個展回数、入場者等経営者の方から考えることができる。紙面はあるが調査、能力がないことをまずは正直に告白いたします。それ故、専門家をはじめ当事者のご協力をお願いします。

いまの予定は膨大な資料などは順次「バラダイスへの道」をお願いして副代表の舟木のところで不定期に小冊子をつくり配付致したいと考えています。

代表 桜井

副代表 舟木